

7. 「播種性血管内凝固」、「敗血症」、「真菌症」、 「手術・処置などの合併症」の発生率

「播種性血管内凝固」、「敗血症」、「真菌症」、「手術・処置などの合併症」の患者数と発生率を集計しました。DPC 病名と入院契機が「同一」か「異なる」に分類して集計しております。
「同一」はある病気の診療目的で入院し、その病気の治療を行なったということを表し、
「異なる」はある病気の診療目的で入院したが、併発していた、もしくは入院中に違う病気が 発症したことにより、その治療が主となってしまった場合を表します。

定 義

最も医療資源を投入した傷病名が播種性血管内凝固(DPC コード:130100)、敗血症(DPC コード:180010)その他真菌症(DPC コード:180035)、手術・処置などの合併症(DPC コード:180040)について患者数を カウントし、全入院患者に対する発生率を掲載する。(DPC6 桁分類とする) 発生率はそれぞれの患者数÷全入院患者数×100 とし、少数は 2 桁まで掲載する。

●指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇DPC6 桁分類 (DPC コード) : 14 桁ある DPC コードのうち、上 6 桁で病名が表されるコードです。DPC コード 6 桁で表示される場合は 病名による分類を表しており、医療行為などは含まれておりません。

◇播種性血管内凝固 (DIC) : 感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。何らかの原因で全身の血管が傷つき、それを修復するために血液凝固物質が大量に消費され、その結果血が止まらなくなったり、血の塊で内臓を痛めたりする病態です。

◇敗血症: 感染症によって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。人間の体は細菌などの感染が起きても局所で留めようとして反応します。しかし、体の抵抗力が下がってくると細菌が血管の中に侵入し増殖します。これが敗血症です。

◇真菌症: 真菌による感染症です。

◇手術・処置などの合併症: 手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。合併症は、どのような術式でもどのような患者さんでも、一定の確率で起こり得るものなので、医療ミスとは異なります。

◇入院契機: DPC コードにて分類される主病名とは別に、入院のきっかけとなった病名(入院契機病名)がそれぞれの患者さんにつけられます。

◇発生率: 全入院患者さんのうち、該当の病気で発症した患者さんの割合

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	—	—
		異なる	14	0.22%
180010	敗血症	同一	10	0.16%
		異なる	10	0.16%
180035	その他の真菌感染症	同一	—	—
		異なる	—	—
180040	手術・処置等の合併症	同一	81	1.27%
		異なる	—	—

解 説

播種性血管内凝固症候群（DIC）の原因は、悪性腫瘍や消化器疾患、重症感染症があります。

入院時に敗血症となっているのは様々な疾患で在宅療養中に感染が発症し、コントロールできなくなった状態での緊急入院がほとんどです。入院後に敗血症を診断されている方は、治療にも関わらず全身状態が改善せず、入院時の肺炎や尿路感染症から敗血症へ移行している患者さんでした。DIC、敗血症ともに当院の入院は比較的高齢の方が多いのですが、食事療法やリハビリ等の支持療法を有効に活用しています。

手術・処置等の合併症で最も多かったのは、人工透析のシャント狭窄や閉塞に対してのシャント部拡張術や再設置を目的とした予定入院でした。近隣には関連施設の寿泉堂クリニックの透析センターがあり、連携しながら治療を行なっています。

手術・処置などは合併症を起こさないように細心の注意を払っていますが、合併症はどうしても一定の確率で起こり得ます。事前に可能な限り患者さんに説明したうえで、手術や処置の施行に同意いただくよう努めています。